

平成22年第3回まちづくりトーク

会 議 録

高齢者福祉について考えよう！

～地域で、心豊かに、自分らしく～

2010年（平成22年）6月26日（土）

10：00～12：00

市民交流センター 第2～4会議室

【福本市民協働課長】 時間になりましたので、始めさせていただきます。

本日は御多忙のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより、まちづくりトークを開始いたします。私はまちづくりトークを担当する市民協働課課長の福本です。どうぞよろしく願いいたします。

本日のまちづくりトークは、今年度の第3回目となります。テーマは「高齢者福祉について考えよう！～地域で、心豊かに、自分らしく～」です。本日はおよそ2時間弱の時間ではありますが、御来場の皆様の積極的な御発言をいただくことができれば幸いです。

始める前に、御手元の資料について御確認させてください。まず、「ご近所サロン大谷戸の紹介」と書いてあるものが1枚、同じく「桜逗会館サロンの活動」と書いてあるものが1枚、「お互いさま逗子～安心生活創造事業～」というものが1部です。「安心生活NEWS第4号」が1部です。最後ですが、まちづくりトークアンケート調査票が1枚です。漏れはないでしょうか。

本日は耳の不自由な方のために、手話通訳と要約筆記のサービスを行っております。発言される方は、ゆっくり、はっきりと御発言くださいますよう、お願いいたします。なお、まことに申しわけございませんが、会場の都合により終了時間を11時50分とさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

それではここからの進行を、高齢者福祉を担当する福祉部の次長、若菜にバトンタッチいたします。よろしく願いします。

【司会（若菜福祉部次長）】 皆さん、おはようございます。これより進行を務めさせていただきます、私、福祉部次長の若菜と申します。よろしく願いいたします。

それではまず始めに、平井市長よりごあいさつ申し上げます。

【平井市長】 皆様、おはようございます。昨日海開きがありまして、いよいよ逗子の夏のシーズンが本番を迎えました。昨日は松沢知事も海岸に来られて、今度、禁煙のルールが海岸で新しく始まったんですね。それで近隣の14市町の首長さんも来られて、盛大にやってマスコミもいっぱい来まして、おかげで主役は取られてしまいまして、松沢知事がさんざんテレビ・新聞で出ているようでございます。まあ何しろ、逗子が全国的にスタートのアピールを切れたということで、大変喜んでおります。

今日は皆さん本当に、土曜日の午前中、大変お忙しい中、このまちづくりトークに御参加をいただきまして、ありがとうございます。今日は高齢者福祉を考えるということで、いろんな地域

で今、高齢者サロンというような形の取り組みが活発に行われています。そして去年の10月からは、逗子のほうが社会福祉協議会に委託しまして、安心生活創造事業という試みが始まりました。それ以前にも、本当に今までいろんな地域の自治会の方、あるいは老人クラブの方、民生委員の方が、いろんな地域での支え合いをしていただいていたと思いますけども、ここで皆さんに一堂に会していただくことで、じゃあこれからどうやってこの地域でね、安心して暮らせる、そういう地域の支え合いを広げていくのかということ、事例を発表いただきながら、皆さんと意見交換をしたいと思っております。

とにかく子育てがクローズアップされて、私も時々平井市長は子育てばかり一生懸命やるなど、こう言われることがあるんですが、高齢者の生活を支えるのは本当に地域だと思います。ぜひともここにお集まりの皆様、本当に日ごろから一生懸命取り組んでいただいている方ばかりだと思いますので、今日、行政と、それから地域の代表の方と、社協の方と、一堂に会していますので、有意義な場にしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

【司会（若菜福祉部次長）】 ありがとうございます。大分お席のほうも満席になってきたようですけれども、続きまして、本日の出席者を御紹介したいと思います。皆様のほうから向かって右側のテーブル、中央から御紹介させていただきます。介護予防を目的に、地域でサロン活動を実践していただいております小坪のご近所倶楽部代表、並びに逗子市地域介護予防活動団体連絡協議会会長の西朝子さんです。（拍手）同じくそのお隣は、地域でサロン活動を実践していただいている、桜山の桜逗会館サロン代表の三根テル子さんです。（拍手）その隣が、逗子市福祉部介護保険課長の館です。（拍手）そのお隣、逗子市社会福祉協議会事務局長の立川悦子さんです。（拍手）同じく逗子市社会福祉協議会事務局総務係主査の服部誠さんです。（拍手）逗子市福祉部社会福祉課長の村松です。（拍手）左側、こちらのテーブルに移りまして、平井市長です。（拍手）逗子市福祉部長の堀尾です。（拍手）逗子市福祉部担当部長の佐治です。（拍手）出席者は以上でございます。

さて、ただいま平井市長から、逗子市の高齢者福祉施策の取り組みにつきまして、その課題や将来像についてお話しいただきました。年々高齢化率が高くなっていく中で、今後とも高齢者ができる限り地域の中で、その人らしい暮らしができるような基盤の整備や、多様な生活ニーズに対応するための地域における支え合いが重要な課題となっております。そこで本日は、第1部のほうで、逗子市高齢者保険福祉計画の基本理念でもあります「住み慣れた地域で、いつまでも心

豊かに、自分らしく」というテーマに基づきまして暮らしていけるような環境づくりを進めていくための、さまざまな取り組みの中の1つとして実践されております高齢者サロンと、それから安心生活創造事業の2つの取り組みについて御紹介させていただきます。その間、いろいろと御質問もあろうかと思いますが、まずはこの事業についてお聞き取りいただき、後ほど2部のほうで、市長とのトークの中で御質問をお受けいたしますので、進行について何とぞ御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それではまず初めに、高齢者サロンの取り組みにつきまして、介護保険課長の館より御説明申し上げます。館課長、よろしくお願い致します。

【館介護保険課長】 介護保険課の館と申します、よろしくお願い致します。すみません、座って説明させていただきますので、よろしくお願い致します。

それでは私のほうから、高齢者サロンの取り組みについて御説明させていただきます。平成22年6月1日現在の逗子市の人口6万348人のうち、高齢者数は1万6,524人、高齢化率は27.38%と、県内の市部においては大変高齢化が進んでいるまちの一つであります。

核家族化が進む中、高齢者が住み慣れた町で御元気で過ごされるよう、昨年度から地域の高齢者の皆さんが体を動かし、歌を歌ったり、また食事をされたりするなど、高齢者のサロン活動を支援するため、地域活動センターなど、主体的にサロン活動を実施している団体に対し、逗子市社会福祉協議会が窓口になって助成制度を導入いたしました。助成の対象になる団体は、不特定多数の第1号被保険者を対象として、介護予防活動を行う地域の団体で、年間に4回以上の介護予防活動をし、市内に在住または在勤する5人以上で構成され、活動の拠点が市内にある団体を対象にしております。1回の活動時間が2時間を超え、かつ5人以上を対象に、要介護状態にならないよう予防に資する体操、音楽などの教室や、地域の方や子供たちの交流会、また料理づくりや料理教室等の開催に対する経費の一部を助成しております。

平成21年度においては、西から小坪公民館でサロン活動をしているご近所サロンこつぽ、小坪大谷戸会館でサロン活動をしているご近所倶楽部、ハイランド自治会でサロンを開催しているふれあいサロン桜、久木会館でサロンを開始しているサロン久木ボランティア、桜逗会館でサロンを開催している桜逗会館サロン、桜山2丁目でサロンを開催しているはまゆうの会、池子会館でサロンを開催しているていーる一む篠、沼間公民館でサロンを開催しているすみれの会と、小坪地区で高齢者の配食活動を行っているつくしんぼの、市内9団体からの申し込みがあり、助成を

行いました。その活動は、サロン参加者と同年代の方が営業スタッフとして御活躍されたり、若い世代と一緒に活動し盛り上がってるサロンなど、それぞれの団体が趣向を凝らした活動をされております。

本日はそのような中、地域で予防活動を行っているご近所倶楽部代表の西朝子さんと、桜逗会館サロン代表の三根テル子さんに御出席をいただき、それぞれのサロン活動の現状をお話しいただきたいと思います。ちなみにご近所倶楽部は、小坪大谷戸会館において5年前から活動されており、平成21年度は22回サロンを開催し、サロン参加者は401名に上りました。また、桜逗会館サロンは、昨年4月から活動を始められ、平成21年度は42回サロンを開催し、447人のサロン参加者がいらっしゃいました。両サロンとも地域で介護予防活動を行っている団体の中でも、開催回数、参加人数とも大変多い団体の一つであります。

市内にはまだまだ自主的に活動されてる団体があります。また、これから高齢者サロンを立ち上げようとされ、活動をされている団体もございます。市といたしましては、御高齢になると徐々に外出の機会も減り、友人や御近所とのつき合いも減少する傾向があるとお聞きしておりますので、お近くの地域に一つでも多くの高齢者サロンができ、地域の高齢者がお元気で参加しやすい状況になれるよう、高齢者サロンの拡大と、その活動を支援してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【司会（若菜福祉部次長）】 ありがとうございます。それでは続きまして、実際に地域において高齢者サロンの活動を行っていらっしゃいます、ご近所倶楽部代表の西朝子さんより、日ごろの活動についてお話しいただきたいと思います。西さん、よろしく願いいたします。どうぞ前へ。

【ご近所倶楽部代表 西】 （拍手）席を移動させてください。どうも、先ほどは座ったままでごあいさつしてしまって、失礼をいたしました。ご近所サロン大谷戸の代表の西朝子です。ご近所倶楽部と紹介をされましたけれども、一応最初の段階でご近所倶楽部という形をつくって、その中でいろいろな活動をしていこうということで、その一つとしてご近所サロン大谷戸というものを考えているんですけど、今のところちょっとほかに手がけるほどの余裕がないので、主にやっているのはご近所サロンの活動が中心でございます。

では、ご近所サロンの内容の紹介をさせていただきたいと思います。設立の目的に関して、少々ちょっとこちらと、お手元の資料と言葉が異なるところが出てくるかもしれないんですけれ

ども、ほとんどこちらに沿っているのと変わりはないので、資料を見ながら記入できることは記入していただきたいと思います。一応設立の目的として、この会は外出の機会や交流の機会が少なく、ともすれば家にこもりがちな高齢者や障がい者の方々が、気軽に参加できる場を提供し、地域のコミュニティサロンとなるように、平成15年9月に、同じ思いを持つボランティアとサロンを立ち上げましたということなんですけれども、最初に集まったメンバーはケアマネージャーとヘルパーと民生委員と、地域のボランティアを長いことやっている方々が、10名程度集まっていたいて始めたサロンなんです。その中でいろいろと話し合っ、て、活動内容をどうしようかということ、で、次に移ってください。

ご近所サロンの活動内容として、毎月2回、ご近所サロンを大谷戸会館で開催しております。1回目が第2金曜日の12時から15時ということで、ティーサロンを開いておりますが、これはお茶とお菓子で午後のひとときを、みんなが話をしたり、ゆったりした気持ちで手づくりのものをつくったりとかそういうような形で、お茶でみんな楽しく話し合っ、て過ごしております。第4水曜日のほうは手づくりの昼食付きということで、普段なかなか大勢の方と食事する機会のない方たちが多いものですから、みんなで食事をする楽しさを味わってもらいながら、体操と歌とか、そういう健康増進につながるようなことは必ずやっ、ていって、そのほかに外部からボランティアでいろんな方々が応援に来てくださいまし、て、演奏をしてくださったりとか、とっても何かユニークな踊りを踊っ、てくださるグループの方とか、年間を通じて本当にいろんな方がサロンに協力してくださっています。大変ありがたいこと、で、プログラムを私たちはつくる上でそういう方々の協力が不可欠で、もう本当にありがたいと思っ、ております。一応活動の内容としては月2回、そのようにやっ、ております。

次には、ご近所サロンを開催するっ、ていうためには、結構いろんな準備が必要なものですから、毎月運営会議として、毎月1回は最低開い、ております。このときはやっ、ぱりみんなで毎月の企画を考えたりとか、食事のメニューを考えたりとか、今、当面問題となっているようなことを検討し合っ、たりとか、かなりいろんな意見が出、て、今のところちょっと時間が足りないぐらいに会議は白熱しまし、す。

もう一つ、スタッフの資質向上のために、研修会を年に2回程度開催しております。昨年はずね、老いについてということで、聖ヨゼフの先生に来ていただいて、認知症の勉強をしながら予防についてとか、いろんなことを講演していただい、たりしました。もう1回は、やはり会を運

営していく上で、なかなかみんな楽しい会にするためには結構苦労しておりますので、我々スタッフも技術の向上もしたいということで、レクリエーション協会に属しておりますソーシャルワーカーの方を招いて、ゲーム指導の仕方やら、みんながうまく交流ができる仕方とか、そういう技術の交流なども教えていただいたりと、結構研修会も、ほかの団体にも呼びかけたりして聞いていただいたりで、これも毎年毎年続けていく予定のものです。地域に活動が大分浸透してきたんですけども、より活動が浸透していくようにということで、毎月町内会の掲示板にちらしを張らせていただいております。そのチラシが裏側に、最初のご近所サロンの紹介の裏側にチラシがあると思いますけど、手づくりのかわいいチラシになってますので、意外と問い合わせがあったりします。

以上内容を実践していますが、活動の主たる目的は、参加者の健康増進を図れるということと、生き生きとして笑いの絶えない楽しい交流の場になるようにということとを、常に心がけてやっております。先ほども介護保険課の課長のお話でありましたように、神奈川県は高齢化率が大変高いということですが、介護認定は非常に県下でも低いほうだそうですので、やはり逗子市は、元気なお年寄りが非常に多いという証明だと思うんですね。ですからそういう意味で、ご近所サロンも介護予防の一翼を担えるようにという気持ちで頑張っております。

参加者については、一応原則としてサロンまで自分で来られる人を対象としてやらせていただいております。参加年齢は問わないんですけども、現在は70歳から92歳ぐらいまでの方がお見えです。毎回の参加人数が10人から20人程度というふうに、そちらに書いてあるんですけども、実際この中の10人というのは、ティーサロンはわりかたお茶のタイムなので小ぢんまりとしてやっておりますので10人程度の参加で、あと御食事付きのときになると20人ぐらいの参加で、スタッフと合わせますともう本当に35~36名から40名近くに、うちスタッフが非常に多いものですから、すごく人数が多くなって、もう本当に楽しい会になっております。

次に参加者に、先ほども年間の延べ参加者は400人以上ということで御紹介いただきましたけれども、本当に徐々に徐々にふえているという感じで、こちらもいろんな形で対応するように頑張っております。

現在の課題ですけれども、会場が、徐々に参加者もふえて、スタッフも最初のうちは10人程度でしたけれど、今は登録してくださってる方が25名程度おりますので、出席率も皆さんスタッフの方も高いものですから、会場が大谷戸会館、ちょっと手狭なんですね。ですから運動したりす

るときに、ちょっと不自由を感じてしまう広さだなと感じております。

会館は大分年数を経ておりますので、トイレが和式なんですね。そして段があるときでありますので、非常にお年寄りにとってお手洗いは危険をちょっと伴うようなことがあって、市のほうにも改善の要望を出したりしたんですけれども、何か今年度から会館の建てかえについてのお話し合いがあるようなことも聞きましたので、なるべくスピード感を持ってやっていただけたらいいなということと、もしその間サロンが開けないとしたら、ほかの場所をちょっと検討したいと思うんですけれども、その際にも市のほうの協力があると、大変助かるなと思っております。よろしく願いいたします。

先ほどスタッフも現在25名というふうに申し上げましたけれども、大体5年もたちますと、スタッフも5歳は年上になってきたわけですよ。それで現在平均年齢は大体70歳ということですね、やっておりますけど、皆さんまだ70といっても、今どきは元気な方が多いんですけど、でも最高齢は86歳のスタッフがいるんです。もう何か体力は40代ということで非常に若々しく、今日も来ていただいているので、後で御紹介したいと思えます。

そういうわけで、大体大ざっぱなサロンの紹介ということになりましたけど、最後に、何か図々しく市役所へのお願いなんて書いちゃってあるんですけれども、先ほど、昨年度から市の介護保険課のほうから補助金をいただけるようになりました、10万円ほど。本当に今まで参加者とスタッフと両方、みんなで会費を払いながら、ほんとぎりぎり活動してまいりましたものですから、やっぱり10万円はとってもありがたくて、いろいろと、ちょっと余裕のある企画をできるかなとか、お食事にもちょっと色をつけてあげることができるかなとか、一応うちのほうも市民祭りでバザーなどをして、利用者さんがいろんなものつくってくれるものですから、バザーのときにそういうものも売らせていただいたりして、それを運営費に充てたりもしていたんですけれども、去年からさらに少しゆとりのある運営ができるようになりました。そして先ほども何かお願いしちゃったのと同じなんですけど、大谷戸会館の施設の、ぜひ建て替え及びその間の施設の確保をお願いしたいなと思っております。ご近所サロンこつぽは、公民館でやらせていただいているようなんですけれども、うちのほうもほかにどこか確保できる場所があれば、お年寄りが行きやすい場所をいろいろと考えたいと思えますので、御協力のほどよろしく願いいたします。そしてやっぱり、ボランティアでやっておりますので、いろいろと困ることも結構あるんですね。そういうときに行政のサポートがあるととっても助かりますので、もう少し、連絡協議会ができ

たものですから、その中で行政に対するいろいろと要望やら、助言をしていただきたいなということをおもっております。

サロンの風景を少しスナップで御紹介したいと思います。今、出ておりますが、クリスマスの会なんですけれども、私たちのクリスマスの会はとっても盛大なものです。この手品をやってください方は、かなり1年間で何度も来ていただいて、もう本当に参加者の方は目を皿のようにして、どうしてこのお金が出てくるんだろうと、これすごい、お金なんですね。もうお金持ちになったような気分になるんですけれども、もういつもいつもこの方が来ると、利用者さん、目を皿のようにして元気が出ちゃって、寝てる人なんか誰もいません。

そんな感じで、この次もクリスマス会なんですけれども、これはもう利用者さんがおのずと自分で洋服をつくって、レイをつくって、すごいユニークな踊りを御披露していただいたりとか、スタッフと参加者という垣根がほとんどなくて、ほとんど両方で助け合いながらサロンを運営しているというような感じなんです。

次は、これはミニボーリング大会というのをときどきやるんですけれども、ミニですから、こんなにちっちゃくて、ちょっとどういうものか見えないんですが、これ、ちゃんとボーリング場のレーンになってるんですね。倒すと点数が、点数というかピンが何本か倒れるんです。こういうやっぱり、あとね、風船バレーボールとかね、非常に競技をするということになると、もうみんな何か子供に戻ったように結構興奮しちゃって、すごい燃え上がっちゃうんですね。ですから、たまにしかやっぱり入れられないです。あんまり興奮しちゃうと、次の日に響いたりすることもありますので。

ここはちょっと恥ずかしいんですけれども、スタッフによるミュージカルなんで書いちゃってありますけれども、何と都はるみも驚くと思うんですけれども、都はるみの「好きになった人」を、うちのサロンには手話ができる人がたくさんいるんですね。で、手話で踊ってお楽しみをさせてしまったんですけど、とにかく出てきたときから爆笑の渦でした。みんながかつらをつけてお化粧をして、何とも言えない顔で出てきたものですから、これは好評で、あちこちで上演させていただいております。

あと次はですね、ゲームをやっているところなんですけれども、いろんなゲームをやったり取り入れて、少しでも頭と体の元気をとということで、反射神経の活性化などを図ったりして、脳トレゲームをやったりとか、いろいろなことを工夫しております。この方が一番のスタッフの高齢

者で86歳の三上さんで、そちらに今日は来ていただいているんですけども、ちょっと三上さん、立って顔でも見せてくださいませ。（拍手）それでとにかく体力年齢が40代なんですよね。そしていつも…いつもではないんですけど、ほんと1年のうちの半分ぐらいは体操の指導をしてくれて、半分ぐらいは新しいゲームを考えてくれたりとか、もうとっても多彩な、うちの宝物と言っていいほどの人材なんで、年をとらないでほしいなと思ってるんですけどもね。これはもう、足の筋肉を鍛えるということで、衰えは足腰からということで頑張ってもらってやってくれました。

これはですね、今月の6月の大谷戸サロンが23日にありましたときに、7月ではちょっと七夕がもう間に合わないということで、みんなで作った飾り物を飾りつけて、七夕を、子供のとき以来だわなんて皆さん喜んで、願い事を一生懸命書いてくださったりして、楽しい一日でした。御食事も、ちょっとささやかなんですけども、でも量的にはお年寄りにはこのぐらいでも、何か多いくらいだわ、持って帰ってもいいかしらなんて言われましたんですけども、できるだけここで食べてくださいね、お持ち帰りは危険ですからしないようにということでお願いしました。

先ほど申しました運営会議が毎月1回しております。年齢層を見ても、かなり年齢層は高そうだと思いますけれども、結構皆さん熱心にやってくれております。

以上ですが、いつまでも元気でいられるということは、やっぱり運動と食事とちょっとした生きがいがあるということが、一番大事かと思うんですね。ですからうちのほうも、無理せず自分に合った運動を心がけ、食事も楽しい食事で、ある程度栄養のバランスのとれた食事を提供したいということと、そしてほんとちょっとした生きがいというのは、いろんな人との交流があるということと、そこに来ればいろんな自分の得意の部分も発揮できるし、またいろんな人から新しいことを教わるということで、とっても励みになるということで、元気にいつまでもいてほしいという思いで続けております。

この方は、日野原先生はテレビで皆さんも何回もお目にかかっているとと思うんですけども、年をとってからの十戒ということで、ちょっと…あ、来年で100歳だそうですね。で、ちょっと、ぱっと急がないと時間がきてますね。くよくよしたときにはとにかく歩くそうです。その週の疲れはその週に取る。60歳からは体の使いすぎより、使わなさ過ぎに注意をすること。気の持ちようで、補聴器はイヤリングにもなるでしょうと。20年後あぁなりたいと憧れるモデルを探すと。若いころ好きだったことをもう一度再開してみる。子供に見返りを求めず、別の生きがいを探す。若い友人をつくる、ちょっと難しいですね、これもね、なかなか。病気とのつき合い方、恐れす

ぎない、悔らない。死を意識してこそ充実した老いの人生計画が立つ。これはやっぱり100歳近くまで生きてきた人の含蓄のある言葉ではないかと思うんですけれどもね。こんなことをときどき思い浮かべながら、サロン活動も元気にやっていきたいと思っておりますので、これからも皆さんどうぞよろしく願いをいたします。

今日はあの、私がパソコンはあまりうまく使えないもんですから、うちのスタッフの小川さんが協力してやってくださいました。どうもありがとうございました。（拍手）

【司会（若菜福祉部次長）】 西さん、どうもありがとうございました。会場等の問題もある中、最高で86歳ということで、25名以上のスタッフの皆さんが研修を重ねながら、ふだんの御苦労のお話、どうもありがとうございます。

引き続きまして、桜逗会館サロン代表の三根テル子さんより、活動についてお話しいたきます。三根さん、よろしく願いいたします。

【桜逗会館サロン代表 三根】 桜逗会館サロンの活動を申し上げたいと思います。ペーパーの、3枚綴りがありますので、ごらんくださいませ。

桜逗会館どこにあるんでしょうと、皆さんお思いになると思います。ここからもう本当にそばの、延命寺のそばの細い道がありまして、そこを行きますと、国道のほうから言いますと谷山さんという写真屋さん御存じでしょうか。あそこのちょうど裏側のあたりになります。それで、50坪の土地に50坪の家のある、小さいサロンでございまして、もともとは自治会館がないと、ここに最寄の住んでる人たちの自治会の会議をするところがないということから、この建物はまちづくりの、富野さんのころのまちづくりの中の発表の中から、これが生まれてきたものでございます。それで、小さい家でございますから、大勢でお食事することができない、体操すると2つに分けなければならないということが、この中ほどに書いてあります。

初め、一番最初にサロンを始めたのは、桜逗会館のサロンとして始まったのではなくて、桜山1丁目自治会のふれあいサロンとして始まりました。20年の9月から6カ月の間、音楽と体操を月1回、1時間のメニューとして活動が始まりました。この先生は、私たちが選んだものではなくて、市のほうからお決めくださって、来ていただけるようになっております。ふれあいサロンの講師のインストラクターの方には、体操については正しい姿勢、どうしても年寄りには首が前に出ますので、正しい姿勢というものを教えてくださいということを、私はお願いしました。それで、音楽の先生には発声の仕方とか、教科書がありましてその本を中心に動くということであれ

ば、その符が読めなかったり、それから歌い方がわからなくて、ただ歌っててもしょうがないので、それを教えていただくように希望しました。

ここの桜山1丁目のふれあいサロンは、91歳から75歳の方、これふれあいサロンの参加者のところに、後ろに年齢をつけていただきたいと思います。91歳から75歳5名、74歳から65歳2名、64歳以下2名とスタッフですね。それで大体この少ない人数ながら、それだけの人が体操をするという、歌は大勢でいいんですけど、体操をすることで手いっぱい場所だったということです。

皆さんの活動が割合好評で、皆さんもっと続けたいということ、それからほかの3丁目の方もいらっしゃりたい、逗子4丁目の方もいらっしゃりたいと御希望ありましたので、21年度としては桜逗会館サロンという名前に名称を変えまして、それからここで補助金をいただいたりする制度、そういうことも勉強いたしまして始まりました。桜山1丁目、逗子3丁目、逗子4丁目エリアとして、いたしました。

サロンの目標は、自宅の近くのサロンで楽しみ、学び、くつろぐという、非常に希望としたら小さいかもしれないんですけど、できる範囲のことからということで、そういうことです。

桜逗会館の運営というところをご覧になりますとおわかりになりますように、桜山1丁目の会長のとか、私、施設長していますので、私とか、4丁目の会長さんの松本さん、逗子3丁目の防災部長さんで浦上さん、そしてこのサロンの事業には大変事務が、事務手続がございますので、それを専門にお願いしているのは、21年度は逗子4丁目の防災会の会長さんの松本さんをお願いしました。松本さんはあまりにもいろいろなお仕事が多かったので、今年度は桜山1丁目の元役員の大西さんがすべてのものを担当して、市との連絡とかそういうものの事務処理をしてくださいました。このサロンの活動の中に、事務処理というものが非常に大きいウエートがありますので、私はそういう誰かきちんとやって、パソコンを動かしてきちっと報告して、集会した人数もお届けできるような、きちんとした事務をやる人が必要かと思います。

それで2番のところに活動計画というのがありまして、これはもう読んでおわかりになりますように、体操というところを見ると2つに分かれていますね。1つの、1回に13人ぐらいしか入れないということであれば、これはもう本当に御迷惑ながら、先生は2回派遣していただくことになってやっております。食事会は狭いので、狭さというものの、会場の狭さというものがありますので、各自治会がそれぞれ計画を立てます。御茶の会とか、それから、合同ではできない状態ですね。御花見とか映画会、勉強会、見学会等は合同で桜逗会館のサロンとしての計画を皆さん

御一緒にできるということになってます。

次のページにいきます。めくっていただきたいと思います。桜逗会館サロンの参加者の、今、参加してらっしゃる方の年齢の分布を申し上げますと、92歳、87歳が各1名、86歳2名、84歳1名、83歳、82歳、81歳各2名、79歳1名、78歳4名、76歳2名、74歳、73歳各1名、72歳2名、70歳1名、69歳、65歳が5名、64歳以下2名と、こんな分布になっておりまして、30名中の80歳以上が11名、出席者の36%、75歳以上の方18名、出席者の60%になります。

このいらっしゃってる方々がどんなところからいらっしゃいますかと申しますと、桜山1丁目、桜山2丁目、逗子2丁目、逗子3丁目、逗子4丁目、大体ここが桜逗会館の集会和自治会のエリアでございます。そのほかに桜山6丁目、逗子5丁目、山の根1丁目、沼間3丁目、この方たちは地区外なんですけども、人のつながりというものは、お友達が遠くにいらっしゃっていらっしゃりたいということがありますので、そういう方たちは遠くからでもお出ましにくださるということになりました。

私の桜逗会館を運営している感想を申し上げますと、92歳から80歳の大勢の高齢者の方が、歌のことも筋肉トレーニングのことも、インストラクターの方にいろんな質問をなさるのを聞いていて、知識欲や生涯学習、学びの心を感じることができまして、立派だなと思っております。さらに、参加してお世話をする人たちも、もう90過ぎてもますますお元気という、そういうものが私たちの学びのものになっていると思います。

歌のときに、最初はぼそぼそとただ符を見て歌って、先生が「大きい声を」と言っても大きい声が出なかったんですけども、順に先生が、後ろの項目にきちんと書いてございますけども、基礎的な発声の仕方とか、腹式呼吸をきちんと教えていただいたときに、男の方たちもとても大きい声、もう最近はとてもいい、小出先生が二部にでも歌がなったらいいなとおっしゃるほどになっていきました。そうしたらそれが、教えていただければいくつになっても皆さんは向上していくことができる、その教わったことを消化することができるという実態を私は目の前にいたしたわけでございます。お年の多い方は何もしないだろうとかできないだろうとか、そういうものじゃなくて、わかればいろんなことを学んでいきたい。

私のところの自治会にいらっしゃる、92歳の方いらっしゃるんですけども、その方が大石先生お上手な教えを勉強された方で、もうそういう昔のいい先生の教える技術を持ってる方が教えてくださる機会がないので、無料でずっと自治会で教えてくださってるんです。そしたらそれに皆

さんが、サロンのお年寄りの男の方たちが今ね、参加していらっしゃる。それで1時間、大体のこのサロンの事業も1時間で打ち切っております。1時間がほどよい時間だと私は認識しております。お疲れ、それから集中できる時間、その集中できる時間も30分から1時間というのが適当な時間かと思えます。それで皆さんは、いらしてる方が、じゃあ終わった後すごくお話し合っていて遊んでいらっしゃるという様子もなく、終わるとすっと引き上げていらっしゃいます。引き上げていらしたらきっとおうちでね、休憩してゆっくりなさってると思うんですけども、何か桜逗会館のサロンにいらしてる方たちは、何かその吸収していく、学んでいくことを喜んでいらっしゃるように私には拝見されます。

それで私が思うのは、このサロンにいらっしゃるお年寄りを見ると、人見知りをしないで皆さんお話し合いなさる。それから、これから高齢の方はますます社会性が必要な時代、施設にも行かなくちゃならない、病院にも行かなくちゃならない。そういうときにやはり人との交わりと、それから過不足ない発言、自分の思っていることを言える、そういうことが私はすごく培われていてこそ、これからの高齢社会を乗り切るんじゃないかと、そう思ってます。やっぱり自己判断力があると、そういうことと協調性があって人の流れに、組織の流れに沿うことができる。そういうことができるこの次の高齢社会、もう目の前に見えてきて、皆さん今、お元気でサロンにいらしてますけども、今度そうじゃなくなったときにもこの人たちがきっと乗り切っていくだろうというふうに予想されるということを思いました。

それで私が特に思うのは、体操のインストラクターの方いらしてくださると、弟子は十何人しかいませんけども2人でいらっしゃる、必ずお1人の方が体の不自由なところを気をつけてくださって、その目配りと気配り、それからこの程度でというときに、きちんとその休憩を取らせていただくとか、そういう心配りがある、安心して筋肉のトレーニングができる、足の指の先からずっというって、頭の上までやっていくトレーニングを、きちんと1時間の間に取り入れ、その間に給水時間もあって管理されて、管理されて筋肉のトレーニングができるということが、それも家の近場で本当に下駄履きで来れる距離のところまでできるということが、このサロンの特異性であるというふうに思えます。市が求めている、地域で元気でいるということの実践のためには、やはりそういうきちんと立派な先生たちを、お若い方たちですけども、目配りしてくださる方があってこそその高齢者の健康につながると思ってます。

それから歌の先生も、私がこういうふうにやってくださいとお願いすれば、ここのサロンはそ

ういうふうに希望されましたのでしますとおっしゃるから、ほかと同じことをしていただいと私は思っておりませんが、その集まった人たちがそれをそしゃくしていけば、相当なことを教えていただいても楽しくできるということで、そのあんばいと目線をどこに決めるかはスタッフである私たちがいたします。それで、いつもいつも集まっている、運営している人が逗子小の避難所運営会の本部の方であり、この地域の桜逗会館を運営していく桜逗会館運営委員会の委員であるということで、ほかと違って心知れないスタッフではなくて、十分意思疎通のできている人たちがここを運営しているということで、私は運営していて頼もしく、それから安心して、何を言っても言ってることが理解していただけることは喜んでおります。

この次のページのところに、どういうふうに教えていただいているか詳細な説明ということを出してみました。これは今お話しした中に十分含まれているのですが、3番の食事会というところを開けていただきたいと思います。

桜逗会館の企画を考えたときに、私が一番先に考えたのは、うちの桜逗会館には小さい台所が上と下にありますが、じゃあ大勢で調理をするところかという、そうではありません。それで、皆さんで食事をするということ、食事を出すということに対して、まず衛生管理、それから皆さんに食中毒が出ない、ひいては市にも御迷惑がかからない、社協にも御心配かけないというところを守った仕事をしなくちゃならない。そうすると私、一番先に考えたのは、炊き立ての温かい御飯と温かいお汁、そしておかわりありますよとあって、そういう言えるような家庭の味をここで提供することができる。一番先にできるのはまずその範囲であって、そこからその主たるもののお惣菜については、責任転嫁ということはおかしいですけども、町へ行って買ったものでも、ちゃんとしたわかった店で買ってくると、そうしてそれをきちんとそこに並べるだけでも、基本的にはもう自分たちが一番安全で提供できること以外のことに手をあまり広げないというふうに今、私のほうはやっております。

それでまた、いろいろ御質問あるかと思っておりますけども、4番に勉強会というのを書いたのはね、皆さんがとても勉強意欲が多いと、それから世の中の事情が非常に変わってきましたね。介護保険付きの老人ホームがこのごろ開設されています。普通の老人ホームがあり、介護付き老人ホームもあり、それから私の知り合いでは、子供がいるけども子供に迷惑をかけたくないので夫婦でそういうところに入ろうと思っておりますと、どういうところに行ったらわかるでしょうかなんていう質問もされていますので、そういう勉強したいと思ひまして、秋には見学会とか説明会をしてい

ただくとか、それからそのほかにも市のいろんな講師の方、例えば歯磨き勉強会とかそういう口の衛生とか、そういう皆さんが生活の近場でおうちから歯ブラシ持ってきて一緒にやってみるとか、そういう衛生とか、衛生管理ですね、体の健康につながる一番大切なことを勉強していく勉強会をしたいと思ってます。それが私の希望です。

ちょっと今、時間15分と言われているんですよ。時間いっぱいなので、また私は電話番号は046-873-1311でございますので、御質問がありましたら、私のうちのほうにぜひ御質問していただきたいと思います。それでは、これで桜逗会館サロンの御紹介は以上で終わらせていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）

【司会（若菜福祉部次長）】 三根さん、どうもありがとうございました。御連絡先まで教えていただきまして。

本日この会場のほうには、ほかに市内で活動されているサロン久木ボランティアや、ご近所サロンこつぼの皆さんを初め、さまざまなサロンの方いらっしゃっておりますけれども、またもし御意見、御要望等ありましたら第2部のほうで、トークのほうでお話しいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは引き続きまして、安心生活創造事業の取り組みにつきまして、社会福祉課長の村松より御説明申し上げます。

【村松社会福祉課長】 社会福祉課長の村松でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。それではこちらの画面、同じものがお手元の席上にも配付させていただいてるものがございますので、それに沿って説明をさせていただきます。

まず初めに、市のほうでこの安心生活創造事業とは何ぞやということを若干だけ御時間いただいて、中には、今日会場にお運びの方の中には既にこの事業について詳しく御存じの方いらっしゃって、何を今さらとおっしゃる方もいるかもしれませんが、お許しいたいで、若干この事業の概要についてお話をさせていただきたいと思います。

まずですね、高齢者福祉について考えるということで、このまちづくりトークやっておりますが、この安心生活創造事業、高齢者の方だけを対象としているわけではなくて、障がいのある方ですとか、その他見守りの必要な方、地域でそういった方々を見守っていこうという体制づくりを目指す事業だということでございます。ただ逗子の場合、高齢化率が高いということで、やはり見守りを必要となさってる方、高齢者の方がどうしても中心になってくることはやむを得ない

のかなというふうに考えているところでございます。

この事業ですね、厚生労働省のほうで事業費について補助金をいただいております。全額事業にかかる費用は100%国からの補助金ということで、3年間のモデル事業になってございます。全国で55の市町村がこの事業の実施市町村に選ばれて、その中の1つが逗子ということでございます。

この安心生活創造事業、国の厚生労働省のほうで目指していることというのが、主に3つございます。生活基盤の支援を必要とする高齢者や障がい者の方などの所在、ニーズの把握をする体制づくりをするということ。そして2番目として、おおむね中学校区程度のゾーンをつくり見守り活動など、支援を必要とされる方が漏れなくカバーされる体制づくりを進める。3番目として、この活動を支える安定的な自主財源づくり、これに取り組むということが国の目指しているところでございます。

逗子市ではどのように行っていこうかということで、市内を東部・中部・西部と3地区に分けました。東部地区としまして、沼間、池子、あと上桜山地区ですね、中部地区として逗子、山の根、下桜山地区、西部地区としまして小坪、新宿、久木地区、この3つに分けて、その中から手始め地区ということで、東部地区では池子区会さん、中部地区では山の根自治会さん、西部地区では小坪区会さんを手始めの地区として、自治会のほうにモデル事業ということでお願いをしております。

申しおくれましたけど、この事業の実施に当たりましては、逗子市社会福祉協議会のほうに事業の進めを、業務を委託しておりますので、この手始め地区について社会福祉協議会のほうでの取り組みを進めているということです。

どのような取り組みかというのが最後になりますけれども、この事業のイメージというところで、1つ目として見守り活動の実施、2つ目として買物の支援、ただ国のほうもですね、事業のあれが買物の代行はしないと、あくまでも宅配をしていただくような店舗の紹介を行うような形での買物支援。そして簡単なニーズ活動ということで、電球のつけかえですとか物の移動など簡単なお手伝いを行う。そして4番目として、今日もお配りしてます緑の「安心生活ニュース」という、生活情報の情報紙を月1回発行しようということで、中身としては防犯・防災、それぞれの地域のお役立ち、福祉情報などをお届けするというようなことを目的としまして、事業展開をしております。

この最初に申しました、国の補助金が3年間の事業ということになってございますので、これからですね、この小坪区会、山の根自治会、池子区会での取り組み以外、市内の自治会・町内会、あるいは自治会・町内会がない地域がまだございますが、そういったところにどのようにこの事業を今後展開させていくか、また補助金がなくなった後ですね、市としてどのようにこの見守りの体制をつくっていくかというのが、今後の課題だというふうに考えています。

具体的な取り組みにつきまして、このまま引き続いて社会福祉協議会の服部主査のほうに引き継ぎたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【服部主査】 では、ただいま御紹介にあずかりました、逗子市社会福祉協議会の服部と申します。皆さんいつもお世話になります。すいません、座らせていただきまして御説明させていただきます。皆様、こちらの画面と、あとお手元に同じ資料がお配りしておりますので、引き続きまして、今、村松課長のほうから御説明いただきました安心生活創造事業という事業のですね、現在まだまだ進んでいないところもありますが、地域の歩みは一步一步というところですね、現在進んでいる部分とこの事業のイメージをですね、皆さんにつかんでいただきたく、簡単に事例の報告をさせていただきます。

まず、「お互いさま逗子」という名前をつけましたこの安心生活創造事業なんですが、この安心生活創造事業という事業の名称はとても堅い事業でですね、私ども市の社会福祉課さん、そしていろいろな関係者の皆さんといろいろお話し合いをさせていただきました中で、お互いさまの取り組みを地域の中でつくっていくというのが、やはり一番これからのこの地域の中で大切なことではないかということで、お互いさま逗子という名前を愛称としてつけました。

この事業の趣旨としては、こちらに記載しているとおりですが、御近所のちょっとした手助けが必要な方に御近所ボランティア、そしてその方を見守りサポーターと呼んでおりますが、その方によってお手伝いしていただく仕組みを、地域の特性に合わせて地域の方々と一緒に考えていきます、としています。地域の特性というのは、すごく頑張っている自治会活動が活発な地域、自治会活動がない地域、自治会活動をもう少し広げたいなと思っている地域、さまざまな地域がございます。その地域特性に合わせて住民の皆さんがどういった形でこの地域はお互いさまの取り組みをやったらいいのかというところからスタート、話し合いをして組み立てていきたいなというところで、私たちは地域の住民の皆さんが主役ですので、それを底支えしてですね、一緒に活動をさせていただくというバックアップ役といいますかですね、企画支援役という形で今、位

置づけしています。

目指すのは、できる人が、できるときに、できる範囲で、無理なくちょっとお手伝いをする仕組みということの中で考える、皆さんが無理なくできる取り組みが必要なのかなという部分がございます。

その中で1つ自治会の、今、御協力いただいておりますところの事例として、駅裏のですね、山の根自治会さんが手始め地区、モデル地区として行っている部分を御紹介いたします。

自治会の中で以前からちょっと、この地域の自治会はすごく活発でございまして、安心生活創造事業でさらに協力していただいているという部分なんです、ちょっとできていた御近所の見守りを位置づけし直しました。自治会の中に「お互いさま山の根」というボランティアチームを結成しまして、この平成22年1月より動き出してございまして、今現在、地域の中でちょっとした手助けが必要な人が37名御登録されています。で、見守りサポーターさんがボランティアとして17名ありまして、見守り活動を実施しています。そして御近所の困りごとは、自治会の中で生活支援ボランティアチームがありまして、そちらのほうが対応しているというモデル地区の取り組みになります。

この（テープ B）など、その御近所さんのつながりという中で、山の根自治会の中で取り組んでいただいております。で、見守る人を「見守りサポーター」と呼ぶことにしまして、現在17名御登録いただいております、活動が毎日行われています。

写真では、この見守りの様子です。このような形でですね、見守りサポーターの方が見守りに行ったり、また地域の中で、御高齢になると、電球がつけかえができなくなった、高いところのものが取れなくなった、毎日のごみ出しがちょっとしづらくなったという部分に関しては、この生活支援の取り組みということで、今申し上げたことプラスアルファで、この山の根の自治会の中に、お互いさま山の根チームのほかに生活支援ボランティアがいますので、その方々がお手伝いするという地域の特性による仕組みを今、山の根自治会さんが組み立ててくださいました。こちら電球のつけかえの現場ということで、お写真ですけれども、実際に山の根、こちらの方、お互いさま山の根であり、生活支援ボランティアの方なんです、このような形でつけかえのニーズに応じたりですとか、時にはお話し合いをしたりですとか、御近所づき合いの中からはちょっとできることをお手伝いしているという部分になります。

その中で一つおもしろい取り組みを、山の根自治会さんのほうで生み出していただきました。

立ち寄りサロントーテムポールということで、先ほど西さん、そして三根さんのほうで、ものすごく頑張っている、あたたかいサロンの取り組みをお話しされましたが、山の根自治会ではですね、皆さん、逗子駅の裏にトーテムポール広場という、花壇があるちいちゃい広場があるんですが、そこは山の根自治会の人たちはですね、生活動線で必ず通るところなんですね。そこにですね、じゃあ月に1回、立ち寄りサロンということで、キャンプ用のテントをこう張りまして、ベンチといすがありますので、お茶とお菓子を出すので、通った人つかまえてですね、こちらの御近所話といいますか、立ち話をですね、みんなでしましょうということで、5月から毎月第3火曜、10時から正午で実施しています。5月は40名来ました。6月はぐっと少なくなりまして、19名に減っちゃったんですけども、雨の場合は翌週に延期ということでですね、今、立ち寄りサロントーテムポールというのを開いて、ものすごくこれもあったかいんですね。時には新宿からこう散歩で歩いてくる人、久木からトンネルを越えて歩いてくる人、その人たちも寄ってやっているという部分になります。

また次の地区として、西部地区の小坪区会というところ、モデル地区、手始め地区では今現在、自治会さん、そして民生委員児童委員さんなどと、このお互いさまの、小坪の準備会というのを結成しまして、今お手伝い活動を中心に募集しようということで、こちら画面見ていただきますと、これはお配りしているチラシなんですが、地域の方に見守り、そして電球つけかえ、ごみ出し、家具等の移動、電化製品取り扱いのちょっとしたアドバイスという部分を踏まえながら、ちょっとした見守り活動、お手伝い活動を小坪区会の中で見出していこうということで企画しております。現在8名の方がサポーターとして応募してくださり、今後この支援が必要、手助けが必要と思われる方々を募って行って、双方をつなげてお互いさまの取り組みをしていきたいなということで、小坪区会さんの範囲で今、取り組みを始めているところです。

また、東部地区のモデル地区の池子区会のほうでは、今、民生委員さんと自治会さんの役員さんで、準備委員会を組織してくださいました。で、今、現在、地域の自治会として、そして地域の活動として、どのような形をとっていったらいいのかということ、皆さんで検討を重ねていただいております。

また、安心生活創造事業では3つのモデル地区がありまして、その地区を中心にさまざまな活動を、皆さんの御協力をいただきながら連携をさせていただきまして、取り組んでいくという部分になりますが、生活情報の提供といたしまして、先ほど見ていただきました、警察・消防・

市・社協のタイムリーな情報を、特に地域の支援が必要な人たちに、これをお届けすることで見守りも兼ねるといふ部分で、警察さんも消防さんもですね、この情報紙に情報を毎月お寄せいただきまして、私のほうで一生懸命つくっているんですが、かなり喜んでいらっしゃいます。こういった機会が警察・消防さんのほうでもなかったってということで、これぜひ、もしよろしければ皆さん御活用いただければと思います。

また、今現在取り組んでいますのが、市内で戸配をしてくれる店舗さん、いっぱいあると思うんですけども、そのリストが今、逗子にはありません。それをちょうど来週からですね、ちょっとつくる検討会を立ち上げまして、地域の店舗さんですね、地域の福祉に御協力いただけるように、また地域の福祉に御協力いただく店舗を募って、募金箱を置いてもらう取り組みも始めたいなと思っています。

モデル地区から波及するその他の地域の取り組みとして、3地区は一応モデル地区ということで一生懸命やっているんですが、それ以外の地区もですね、この3年間いろいろ当たっていろいろということで、今現在、逗子の1丁目から7丁目までの広範囲にかけて、また下桜山、また沼間、池子区会以外の池子、また久木やさまざまところで何とかできないかということで、少しずつですが、住民の皆さんと話し合いのほうをさせていただいている状況でございます。

最後ですが、この事業に関しましてイメージとしてですね、市と社協と住民が手に手をとって、だれもが安心して暮らせる地域づくりをしませんかということでまとめさせていただいております。今後、少子高齢化はもっと進むと思います。今現在、ものすごく心配なのが、高齢の方の孤立死がふえているという点、振り込め詐欺や悪徳商法などもふえているという点、これが現実には地域の問題としてさまざまところで出ております。今から始められること、これから高齢化は止められないかもしれないですけども、高齢化は止められないにしても、ちゃんとそのために対応できる地域の皆さんの力を調整していく、一緒にやらせていただく体制をつくっていくことということが、安心安全な地域づくりという部分になると思います。ぜひ、市と社協と住民とですね、皆さんで新しい地域づくりを進めていきたいなという願いを込めまして、このお話を終わらせていただきます。どうも御静聴ありがとうございました。（拍手）

【司会（若菜福祉部次長）】 どうもありがとうございました。ご近所倶楽部代表の西さん、それから桜逗会館サロン代表の三根さん、それからただいま発表をいただきました社会福祉協議会の服部さん、限られた時間の中で、日ごろの活動についてわかりやすく説明していただきまして、

大変ありがとうございました。

さて、ここからは第2部に移りたいと思います。会場の都合上、今から大体35分程度なんですけれども、トークのほうに入りたいと思いますので、ここからの進行は平井市長にバトンタッチいたしまして意見交換をしたいと思いますので、市長、よろしくをお願いします。

【平井市長】 発表者の皆さん、本当にありがとうございました。もう私は言うことはございません。すばらしい。会場にはね、それぞれの地域で同じような、あるいは工夫を凝らした活動がされている方が多数お見えのようですので、ぜひ、質問でも結構です。あるいは自分たちの地区ではこんなユニークなことやってるよという、あるいは苦労話、いろいろあろうかと思いますが、ぜひ皆さんのほうから御意見、御質問をいただきたいなと思います。いかがでございましょうか。

先ほどの健康な三上さん、ぜひ何かね、どんなこと思いながら活動されているのか、お聞きしてみたいななんて思うんですけど、いかがでしょう。

【市民】 何か恥ずかしい限りなんですけど、ちょっと照れてます。何か健康法というんですけども、市のほうでもね、県のほうで3033運動というのを4年前か何か、県の広報に出てましたね。皆さん、御存じの方います？ 1日30分、週3回、3カ月続けると、3カ月続くとそれが身について、自然にやるようになります。体を動かすことが一番大事だということで、何か市の、県のほうでもたしか4年前の10月ごろに出したんですけど、それ出したきりなんですね。皆さんに徹底するためには、あれを上の方にですね、毎月ずっと3033運動、3033運動とやると、皆さんも知ってくれると思うんですよ。それと合わせて市のほうの「広報ずし」にもですね、3033運動ということね、ぜひ市がそういうことを、何かホームページで映像で発信してるみたいですけども、それを調べてあれすると、その内容がわかると思います。何か詳しく書いてありましたけども。

それともう1つですね、市のほうでも今、死亡率の第1位というのが、がんですよね。85歳から90歳だと、間質性肺炎がほとんどだそうですね。第1位だそうですね。そうすると、よく今言われる口角運動、口を、舌を動かす、これは介護予防といって、こういうアンケートの中に一緒にパンフレットも入れて送っていただきましたけど。あれを、アンケートを出した人に必ず1部ずつ入っていたわけですね。それ聞いてみると皆、あんなの見ないで、ぽっとやるらしいんですね。それで西さんに何か話してくれて言われて、こういうの来ていますかって言ったら知らないって言うんですね。それでその中に、非常にいいこと書いてあるんですね。やっぱり体操をやると、

口角運動とか膝の運動とかで、いろいろなことが書いて、最後に自分でチェックリスト書いて、それでこうやってるんですが、ああいうことをね、この前知らないっていう人がいたんで、保健課のほうへ言ったら、ぜひそういう知らない人がいたらいっぱい配ってください、5部ぐらいくださいって言ったら、12~13部ぼんと袋に入れていただいて、皆さんに配ったんですが。やっぱりそういう宣伝をね、体を動かすことが一番大事だと思うんで、私は毎年健康のチェックのために壮年体力測定には毎年行ってます。そして、65歳からは大変よくできましたと書いてあるんですが、その前の人が何歳代ってこう出るんですよ。そこで何が下がったかっていうと、握力が下がったなあっていうと、握力を一生懸命自分で握力のやったり何かして、毎年こうなるべく…下がってきますけど、下がり方がゆっくり下がるように体を動かすことを念頭に置いて生活してます。それで今のところ、まあ元気であります。以上です。（拍手）

【平井市長】 はい、ありがとうございます。いかがでしょう。ほかにサロン活動をされてる団体の方もいらっしゃってますけど、久木のあたりはいかがですか。どうぞどうぞ。

【市民】 久木サロンを手伝わせていただけてます吉田と申します。私たち久木はこの皆さんの説明と違って、地域の2歳以下の子供たちと、それから高齢者の方と一緒に、食事会と、それから体操をやらせていただけてます。全員で45名から50名ぐらい集まるんですが、久木会館っておんぼろなんですよ。それで50名以上入るとつぶれるからといって、活動は本当はできないんですよ。でも結構体操をやったり、やらせていただけてるんですけど、あれを早くどうにかしてほしいということで、よろしく願います。（拍手）

それからこれ別なんですけれども、地域密着型と言われて、うちのおばがグループホームに、西さんの活動してらっしゃるところの隣にお世話になってるんですけれども、みんなの家というところに。その高齢者の方ばかりが来てるんですけれども、入ってるんですけれども、そのときに1年に二、三回桜見学とか、ちょっと出なきゃならないところがあるんですね。そうするとあそこのグループホームには、乗り物がないんです。それでよくバスが、高齢者バスが出てますね。あれをどうにか協力できないものかと、いつも思っているんですけれども。私が保護者の…保護者っていうのもおかしいですが、おばの身内ということでお話に行くんですけど、そのときにあのバスは絶対市役所でルートで、お金はね、ちゃんと払うということで、ルートがあればいいですねと。桜見学にしても何にしても、あそこのホームは19人いるんですけれども、分散して行かなければいけないんですね。しかもタクシーというのはすごく乗りにくいんですよ。だから

いつも一緒に行っている、これは絶対どうにかしてほしいなということで、今日はサロンというよりも、グループホームの家族の保護者として来ました、市長にお願いしに。以上でございます。

【平井市長】 福祉バスはね、なかなかこれは陸運の許可が面倒くさくてですね、二点間輸送という高齢者センターに行くためのバスになってるんですね。これを何とかもうちょっと融通のきいた交通手段にできないかということは、市としても調査・研究してるんですが、これは既存のタクシー事業者との競合の問題もあるので、一筋縄ではいかないんです。ただ、いろいろと可能性は模索しているので、いい解決方法が見つければまたちょっとね、皆さんと相談をさせていただきたいなと思ってます。

私が興味があるのは、子供との世代間交流がずっと久木では始まったのは、どういうきっかけなり、だったかのかなっていうのを、私は逆に質問したいんですけど。

【市民】 すいません。サロン久木の、今の市長さんの御質問にお答えします。特別に募集したわけではありません。ただ近くに、御存じのように久木の私どもの地区では、聖和学園、それから子供の双葉保育園、それから久木小学校、久木中学校というような、言ってみれば私に言わせれば、簡単に言うと文教地区のようなね、感じのところなんです。その一角に、消防本部の建物を私ども使わせていただいて、サロン久木というのをやっておるんですけども。

今の御質問の趣旨にお答えするんだと、保育園それから聖和学園の幼稚園との子供たちの、簡単に言えば声が聞こえるような場所なんですね、スペース的には。それで何となしにね、最初二、三人の方、御近所の方が、小さな乳飲み子というわけじゃない、2歳前後の子供さんを連れてちょっとのぞきに見えたんですよ。そうすると、ほかの地区はよく存じませんが、私どもの建物では座敷なんです。それで24畳と16畳の二間ありまして、そのふすまを取ってしまうと、足し算すればわかるように三十何畳という広い畳の部屋ができるんです。その一角に子供さん方に集まっていたら、子供さん同士、あるいはその親御さん同士が交流するんですね。そんなことが、最初人数が少なかったんですけども、お互いに口コミその他いろいろお聞きになって、例えば歩いて行くと私の足で30分ぐらいのところ、逗子のハイランドなんですけども、そこからお見えになる子供さんもいらっしゃいます。もちろん若いお母さんがついてきます、ということですね。

特徴的なのは、小さなそのころの子供さんは、朝、食事をして、子供さんってすぐ寝るでしょ

う、おなかがよくなると。で、お一休みしておいでになるんで、10時から始まるんですけども、11時あるいは11時半ごろお見えになる方もいらっしゃいます。そういう時間が来なかったからどうのこうのって、時間に来なかったから入れないよという意味じゃなくて、どうぞお入りくださいということで上がっていただいています。特別にPRしたり宣伝したことはないね、たしかね。自然に子供さんが集まるようになったというふうに御理解いただければと思います。

【平井市長】 ありがとうございます。いつも質問されるばかりなので、たまには質問してみたいなと思ひまして。ありがとうございました。

どうぞ、ほかでいろんな取り組みされてる方がいらっしゃるといいますので、あるいは発表者に対する質問でも結構ですが、いかがでしょうか。ちょっと次の方にバトンタッチで、また後で、はい、どうぞ。

【市民】 私、池子に住んでおります大塚と申します。今まで本当に明るい話ばかりで、ちょっと逆行しちゃうかもわからないんで、大変失礼で、前もって御連絡したいと思うんですが。先ほどお話しのお元気な三上さん、こういう方を本当に目標にしたいと思いますが、今までのサロンの皆様方の話、そういうサロンに参加されるような方は本当に気力も、ある程度体力もある方、お年に関係なく参加される方が多いと思うんですが、私が最近実際に体験したことと目撃したことがありますので、そのあたりもお互いさま逗子ということですので、参考にさせていただきたいと思うんですが。

1つは、私の家内は身体障害4級なんで、日ごろ杖をついて歩いています。それで一緒に歩くことは慣れておりますので、つい先日もスーパーに、大手のスーパーに行きまして、エレベーターもエスカレーターもあるんですが、普段杖をついてエスカレーターに乗るときは、杖を右手に、左手にベルトをつかまって自然体で上り下りしております。つい先日、最近同じく身体障害4級になった方がいまして、今まで健康だったんですが体調を崩してその身になりまして、その方も一緒にお連れしてエスカレーターを降りようと思ひましたら、怖がっておりられないんですね。ちょっと私だめということで、ある程度、失礼なんですが障がい慣れしてる人が、そういうタイミングはつかめますけども、見た目同じようであっても、実際にエスカレーター一つも上り下りできないという人もいるという方も考慮していただきたいと。

それから、ついせんだって車で、私、車運転できるんですけども、東逗子駅の交差点、逗子のほうから行くと右へ行くと沼間小学校ですか、その交差点で信号待ちしてございましたら、対面の

ほうで見かけたのが80歳ぐらいのお父様らしき方、それから50ぐらいの体の不自由な方が、段差、そのところがわずか10センチかそこらだと思うんですが、そこも上りきれない。で、御不自由なさってる。車でなかったら手助けしたいと思うんですが、それもいかず、そういう方がいらっしゃるといことも現実。

それから、あちらの交差点は、私の家内もそうなんですが、スクランブルにはなっていませんが、信号が右と左というか、同時に青になりますけども、一遍には渡りきれません。ましてそういう方ですと、もう、1回渡りきるのも大変な御苦労。で、したがいまして、付き添いしているそういう年配の方がですね、そういうサロンに行きたいと思っても、なかなか行かれないんじゃないかと思います。現実、そういうこともあるということも、こういう会に参加してる方はちょっと関係ないような感じになるかもわかりませんが、あり得るといことも御理解いただきたいと思います。以上です。

【平井市長】 どうぞ、じゃあ西さん、はい。

【ご近所倶楽部代表 西】 うちのサロンは先ほどもお話ししましたように、ケアマネージャーとかヘルパーとか民生委員とかがかかわって、現在も一緒に活動してくれておりまして、割に認知症の方なども隣のグループ、先ほど久木の方が発表したグループホームの方も、やはりグループホームにいるだけじゃなくて、そういう違った方との交流も求めたいということで、毎回グループホームからも4名ぐらいの参加があるんですね。そしてほかにも、介護保険を受けている方で要介護とか要支援の方も来ていらっしゃるんですね。そういうときにはやはり、うちのほうはかなり注意深くそういう方を見守っておりますし、ちょっと具合悪くなれば必ずおうちまでお送りするような体制はとっておりますけれども、それがちょっと危険が伴うかもしれないなと思って、これはもう少し検討しなきゃいけない余地があると思いました。

前にやはりいろんな方が参加したときに、元気な人だけやったんじゃ、本当に必要な人には行き渡らないんじゃないかなんていうお話もありましたときに、やはりできる限りこちらに、ちょっとお迎えに行けば一緒に歩いてくるぐらいな形で来れば来ていただくとか、そういう配慮はなるべくしておりますし、来ている人がだんだん来なくなったな、なんていうときには必ず連絡をとって、どういうふうになんか、状態がなってるかっていうことを尋ねたりとか、結構そういう中でケアマネージャーにつなげて、少し介護の認定を受けてもらったりとか、ヘルパーさんを派遣したりとか、そういうようなことも多少やっております。ですから、いろんなところで

は、いろんなやり方でやってると思いますので、そういうようなところにも御相談に行かれたら、結構使える部分もあるんじゃないかと思います。あまりお役に立たないことかもしれないですけども、一応うちのほうは配慮しながらやっております。

【平井市長】 ありがとうございます。そういう意味では先ほど服部さんもおっしゃってたけど、市と社協と、それから地域の皆さんとがしっかり連携して、必要な相談機能であったりアドバイス、それからあとボランティアでもね、いろんな能力持ってる方がいっぱいいらっしゃいますから、本当はもっともっと知らないところに、この逗子市内にいっぱいいらっしゃるはずなんですよね。そういうのはこの1階に今、ボランティアセンターの窓口、社協の、この1月から設けました。市民協働課と連携していろんなそういう人材の掘り起こしネットワークというのを今、つくろうとしています。学校のほうでは学校支援の地域本部っていうのも去年から立ち上がって、そこでもいろんな地域の方が子供たちの学びをね、サポートしていただいて、本当いろんな活動がそこそこで起こっているんで、これからはもう本当にどうつなげて、それから地域の皆さんと一緒に手を携えて取り組んでいくかという、いよいよそういう段階にきたかなという思いでいっぱいです。

私、実はね、この間…おとといかな、戸塚とね、港南区にね、ほんと地域の人が自主的にやっているこういう活動を、もっとちょっと強化したようなところの視察に行ってきたんです。今日、視察に一緒に行っていた方がいらっしゃるんで、ぜひちょっとそのときの感想とかをお話しただければなと思うんですけど、どうです。

【市民】 それじゃ今、市長からお話ありましたので、話させていただきます。私はほととぎす隊というところで、まちづくり基本計画の見守りをやってまして、特にふれあい活動を、これから地域でもってどういうふうに展開するかということをやっている勝山と申します。一緒に行きましたのが、さわやか港南というところと、それからフラットステーションドリームという、その2カ所でございます。

さわやか港南というのはですね、ちょうど一般住宅をですね、例えばハイランドだとか、ああいうところにある普通の戸建てのお宅をですね、ボランティアの人たちがお金を自分たちで出し合ってますね、借りたんですね。もともとは、もっともっと小さいところからスタートしたわけですけども、協力者がいっぱいまして、そういうところを借りまして、介護保険制度を、介護保健事業としてはやらないという強い意志でやられてますけども、そういうような形でもって

一般の家を借り上げて、皆さんがおやりになろうとしているようなこと、特に一番ポイントはですね、常時オープンなんです。常時開けてると。それでボランティアの方々と一緒になってやって、あといろんなサービスを有償サービスでやってるとか、そういうような形でもって非常に、リーダーの方はですね、女性でございますけども、非常に何ていうか、パワーがありまして、ここにいらっしゃる皆さんの中でもそういう方いっぱいいらっしゃると思いますけど、非常に我々の一つのねらう方向、一つは常時オープンであるということ、月に何回というやり方が今、逗子の主流でございますけど、常時オープンということ。それでかなり広い地域を面倒見てる。それで全く民間でやってると。それで市長が言ったんで、これはみんな民間でやればいいじゃないかという話もちよっと市長から出ましたけど、いやこれは一緒になってやるという話に今なってますけど。

それからフラットステーション、それは戸塚のところでございますけども、フラットステーションドリームですから、そこはですね、もともとドリームランドにハイツございましたね、あそこ2,000戸ぐらいのところだったと記憶してますけど、それで5,000人ぐらい、それでやっぱり高齢化率が非常に高いというところに、もともとはですね、そこに薬屋さんがあったらしいんですけども、その薬屋さんが廃業になっちゃったと。それでそこを何といいますか、買い取りまして、それもボランティアとして買い取る。それでそれを食事サービスといいますか、これも常時オープンです。食事サービスを使って独立として利益を上げながら、利益を上げながらっていうか独立採算でやってると、そういうような活動です。

ですから我々も、逗子のこのいろんな活動の一つは常時オープンということと、それからそういう何ていうか、民間パワーをもっともっと使って展開するということが必要なのかなというふうに思いました。皆さんと一緒にですね、これからますますいろんな形で展開できたらというふうに思ってます。

【平井市長】 はい、ありがとうございます。市は別に皆さんにすべてお任せするつもりはありません。市民の力は大変貴重ですけども、やっぱり市もしっかりとバックアップ、支援をすべきところはしなきゃいけませんし、今、施設の不足といったことも御意見をいただきました。これはこれとして、市がやるべきことは計画を、まあお金がなかなか厳しいですけど、工夫して今、一生懸命検討してます。

一方で今、事例を紹介いただいたように、民間の民家を自分たちでお金を出し合って借りて、

そこで有償サービスね、例えばその500円とか、ちょっと安い金額だけでも、それこそ買い物の手伝いをしてみたり、そういうことを地域で支え合っているという事例も見てきました。ですから、先ほど服部さんのほうから、地域にできることをできる範囲で無理なくというお話がありましたけども、これもやっぱり同じでね、無理があってはどこかでつぶれちゃいますから、そういうそれぞれの地域に合った形をね、皆さんと模索して進めていければなというふうに思っています。

さあ、いかがでしょう。ほかにぜひ、時間があまりなくなってきたんですが、あ、じゃあ後ろの…どうぞ。

【市民】 私、ハイランドで、ふれあいサロン桜という小ぢんまりとしたふれあいサロンをやっています。地域性があるのか、なかなか人数が広がらないんですけども、とにかく伝え合い、悩みもそれから生活の知恵も、いろんなことを伝え合う、支え合うという会でいこうと思っています。

それで最初は、引きこもりの友達を引き出すために一緒につくった、食事もろくにしないで引きこもっている友達を誘い出すための一つの手段だったんですね。その友達がとにかく元気になればいいという感じでやってたんですけども、ちょっと声かけましたら何人かの方が集まり始めて、リピーターで、転居された方、入院された方を除いて、最初から続いた方が10人足らずの会なんですけれども、そこに親子連れも参加したりしまして、生活の知恵、嫁姑という感じで、若いお母さんには嫁姑という感じで来ていただいています。アルコール中毒だった人がみんなに励まされて、久里浜に入院してそしてすっかりアルコールを絶ったり、今はその方にたばこを絶つようにということで、みんなで励ましています。全然食べなかった人がきちっと食べるようになって、みんなで涙流して喜んじったりというような会をしています。

それとは別に、本当にみんなが、ふれあいサロンとはまた別の計画なんですけれども、コミュニティーレストランというのを計画しています。そこに来ると、私たち栄養士の仲間なんですけれども、ゆりかごから墓場までの食事の相談ができて、それでそこで一緒につくって食べて帰る、離乳食から介護食まで、すべてそこに来れば、こういうふうにつくるんだよ、こういうものが食べられるんだよというような食事相談が365日できる場所を今、計画中です。お金がないので、それこそ市長に泣きつきたいこといっぱいありますけれども、食育という、市民の食育という視点を基本にしながら、ワンコインランチ、500円持ってくれば、そこで一人暮らしの人がおしゃ

べりをして、下駄履きで、草履履きで来て食べて帰れる、そこで今、こんなものがおいしくできるんだよみたいなつくり置きのも、保存食のきくもの、そういうようなもの、つくっておいて買って帰ってもらう、それから保育園のお母さんたちには、電話をいただいたら夕食のお弁当を作って待っていてあげる、おうちに帰ったらそれを食べさせて、すぐに夜更かししないでお子さんを寝せてあげられるというような理想を掲げて、今、準備中です。皆さんの応援またよろしくお願ひします。（拍手）

【平井市長】 はい、ありがとうございます。先ほど発表をいただいたフラットステーションのドリームという、ここもほぼ毎日ランチが出るんですね。地域の方が、1日1,000円ぐらいの手当で40食ぐらいつくって、地域のお年寄りがすごく楽しみに毎日のように来られるそうです。まあそういうものもね、逗子でできればほんとすばらしいなと思います。

先ほどお手を上げてらっしゃいましたよね、いいですか。

【市民】 山の根自治会のツカと申します。時間がないようなので、手短に。大分重なるんですけども。今、施設を見ますと、もう既に話が出ましたけれども、御老人の方が来るのに段差があるという話が出ました。それから足がないという話が出ました。それよりも何よりもですね、今、集まる場所、集まる場所のロケーションが非常に、消防車のあるところの2階とかいろいろあるんですが、まずそこにエレベーターがない。階段で上がれない。逆を言いますとね、ひとつ我々の山の根自治会としては、ぜひそういう一人の方に、こういうのがあからぜひ出てきてくださいよと、送り迎えしますよと言いたいんです。言いたいんですけど、送り迎えまではできるんです。その山の根会館に来てもらったときに、2階に上がれないんですよ。

ですから、どうしても老人施設のこの活動を活発にするにはですね、2つお願ひがあるんですね。もう市だけじゃなくて、それこそ今、各地域に空き家もあるから、いろんな手当てをしなきゃいけないんでしょうけど、場所をどうするか。何とか、少なくとも車が目の前にとまれる、介護の車がとまっても邪魔にならない場所をどこか探してほしいと。それこそ、消防車ごとそこに移しても構いませんから。

それが1つと、もう1つ、2階にあるなら必ずエレベーター、1階に消防車を入れるんでしたら2階になりますから、エレベーターという施設をつけてくださいと。それがあればですね、地域の人にあそこに行ってくださいよと、エレベーターがあるから、あそこでみんなで話しましよと言いたいんです。それが今、言えなくて非常に悲しい状態だという、ほかの地域はわかりま

せんけど、それをぜひお考えいただきたいと思います。（拍手）

【平井市長】 山の根はなかなかちょっと、松本谷戸のほうはね、平場の会館ありますけど、消防分団は必ずね、2階建てになっているので、これをどう地域でフラットでね、設置できるかというのは大変貴重な御意見だと思います。大谷戸会館はたまたまフラットでね、できそうなので、久木も…いや、大谷戸会館もわかってますよ、はい。久木のほうも何とかね、場所を探しながらいろいろと模索してるんですけどね、なかなかまだ実現には道筋が見えてなくて申しわけないと思ってますし、グリーンヒルもね、前から御要望いただいておりますが、本当に大変でございます。

いかがでしょう、はい。

【市民】 今の皆様方の御意見をまとめて1つ質問なんですけど、市にあります、池子にあります健診センター、あそこがフルに活用されてるようには思えないんですけど、あそこはバリアフリーでエレベーターもあり、そばに訪問看護ステーションもありで、あそこをもう少しお年寄りのためとか、そういうことに活用していただけないかなとすごく思ってるんですが、いかがでしょうか。何か障害がありますか。ごめんなさい、保健センターのことです。

【平井市長】 保健センターはもちろん保健のための施設なので、いろんな活用の方法はあると思います。ただ、今、オープンしてる時間があれなのかな、夜開いてないのかな。

【市民】 そのオープン時間を土・日も使えるようにとか、市民のためにもう少し融通をきかせて、フルにあそこの保健センターを活用させていただくような形にはできないのでしょうか。そうしますと今まで皆さんが御要望してたことが、随分クリアされるような気がするんですが。

【平井市長】 はい、これは大変貴重な御意見として受けとめさせていただきます。運営の問題とかね、いろいろあるので、課題としてはすぐというわけにはいかないかもしれませんが、今、有効活用という意味ではね、言ってみたらもったいないということなので、これは今、ここに部長2人いますから、検討させます。

ちょっとそろそろ時間がなくなってきたんで、あとお一方ぐらい、じゃあどうぞ。

【市民】 私、グリーンヒルの神田でございます。もう本当に市長には、夢の中にも出てくる神田でございますので、どうぞよろしく願いいたします。

本当に自治会館が、もう大分老朽いたしまして、健脚な方は上り下りが平気できるんですけど、応急処置の手すりももうさびが出てまいりましたし、さびが割れたときはいったいどうなるのかと、もしもけがでもしたら市長が責任を持ってくださるのかと、そのあたりまで私は本当に

人ごとでなく、グリーンヒル自治会というのは、この中心部よりあれだけ離れておまして山の上にある、これでもしも災害が起こった場合は本当に孤立化してしまいますし、特にこの一、二年の間に事故で亡くなる方が、本当に私が住んでおりますところの10軒以内のところには2軒も起きるだとか、また認知症の方が、本当にあのときはあんなにお元気だったのに、こんなにいつの間にか認知症になってしまったのかしらというような方がちらちら目についてまいります。

こういったことを私は日常見せておまして、まず何が大事かと、やっぱり明るいまちにしなくちゃいけないということ、やはり町からこれだけ私どものように離れておますと、さっとういうすばらしいところに集合してくるということができなくて、家の中にこもりがち、そういった方を今度引っ張り出そうということ、今日のお話をいろいろ参考にさせていただきながら、遅ればせながらの立ち上げでございますけれども、本当にあつあつ御協力をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【平井市長】 はい、ありがとうございます。いつもいつもお聞きをしておりますが、なかなか先立つものがという、いつも言いわけばかりしてすいません。ただ、優先順位というのはね、言ってしまうと大変申しわけありませんが、今、一番古い会館は大谷戸会館なんです。で、もう一つは、久木には分団の詰所しかなくて、ハイランドには立派なのありますけど、久木のこの小学校周りにはそういう会館がないということで、それも模索してます。グリーンヒルのほうももちろんその次にはね、古い建物ということになっておりますので、これは順次いろんな検討しながら、皆様の活動がより活発になるような環境を、バリアフリーも含めて整えていきたいなというふうに思っております。

すいません、予定の時間があと2分ということなので、最後の私のほうからのまとめとごあいさつで締めさせていただきたいと思いますが。本当に今日は各地域の活動をされてる方がこれだけ多くお集まりをいただいて、貴重な御意見、発表をいただきました。ありがとうございます。ここ数年、本当に地域の力がどんどんどんどん広がって、パワーアップしていったということを実感しております。これからますます高齢化が進む中で、本当に地域の支えが必要になってきている。無縁社会ということが言われたりしている中で、逗子はこれだけ元気な皆さんが、本当に熱心に活動していただいているので、これをどうやって、もっともっと地域のまちづくりに活かしていけるのかというのが、本当に行政としての大きな課題だというふうに思っています。

ですので、今日わずかな2時間という時間でありましたけれども、それぞれの地域にまた戻っ

ていただいて、それぞれでまた工夫していただき、そしてもっともっと活性化、充実していくために、どんなアドバイスなり支援が必要なのか、あるいは世代間の交流をもっと広げていく、いろんなテーマがあろうかと思えます。ぜひ市のほうにもですね、遠慮なさらずにいろいろと御意見、御相談をいただいて、私、たたかれることはもう慣れておりますので、もうたたいてたたいて、みんなでたたき合ってますね、よりいいものにしていきたいなど、そんなふうに思っております。

今日は本当に御協力いただいた皆さん、ありがとうございます。今日が終わりではありません、始まりでありますので、今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げまして、今日のまちづくりトークの最後のあいさつとさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。（拍手）

【福本市民協働課長】 皆様、ありがとうございました。最後に私のほうから若干。発表者の皆様、会場の皆様、本当にありがとうございました。たくさんの御意見いただきましたので、今後の参考とさせていただきます。

アンケートですが、お書きになられた方は出口の職員にお渡しください。あるいはですね、後ほどでも構いませんので、ここの1階の市民交流センターの受付のほうに御提出をお願いしたいと思います。

あともう1つ御案内ですが、次回のまちづくりトークなんですが、7月17日（土曜日）10時から、テーマは学校支援地域本部です。これをテーマに開催いたします。ぜひ次回も御参加いただけたらと思っております。

では以上をもちまして、本日のまちづくりトークを終了させていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）